

名東区魅どころ発見伝

愛知東邦大学
学生有志

人口16万人、名古屋市営地下鉄東山線の東4駅があつて市の中心地へも便利だけでなく、藤が丘はリニモの始発駅でもあり、ジブリパークほか長久手方面にもすぐ。

……でも、「どんなところ」ってあらためて聞かれると答えにくい。「割と新しいまちで、でも緑があつて、良いお店もあつて、基本住宅地で、いいところで、……」ありきたりの言葉が頭に浮かぶ。実は行ったことがない場所も多い。そんな方

も多いのでは。
そこで、名東区唯一の大学、愛知東邦大学の学生有志が、「通っている大学のあるまち、名東区」のことを、調べて、歩いて、聞いて、想像して、学んでみました！

交通インフラと

土地区画整理で一気に開発

まだ千種区の一部だった昭和40年代、開発は急ピッチで進んでいきました。東名高速名古屋インターチェンジもでき、道路が整備され、バス路線も増えました。そして何といつても、地下鉄の延伸です。かつて藤が丘辺りにはお店もなく、買い物に行こうとすると四軒家か引山か上社に出るしかなかったそうです。でも、だからこそ、車両基地に必要な9ヘクタールの土地を提供できたことが決め手となって、藤が丘が延伸先となったそうです。その頃から長久手・日進には大学キャンパスも次々に誕生。藤が丘は、ターミナル駅として発展していきます。

一社、上社、本郷の各駅前も開発が進み、アクセスの良さもあつて人口はどんどん増えていきました。



名東区になってからの50年

この地域の歴史を、徐々に遡っていきましょう。名東区誕生から現在までに、人口はほぼ倍になっていきました。名東区になってから毎年数千人規模で増加し、平成元年には15万人を超えました。ここ数年は微減のようですが、それでも16万人台をキープしています。

賑わいを続ける背景には、平成17年の「愛・地球博」開催に伴うリニモ開通、東を接する長久手市・日進市の開発が進んだこと、そして令和4年、愛・地球博記念公園内のジブリパーク開設も大きく関係しているようです。

名古屋市交通局藤が丘工場

ここは東山線の車両の点検や修理を行っている工場です。名東区最大の工場ではないでしょうか。私たちが日々地下鉄に安心して乗れるよう、百名を超える職員の皆さんが支えて下さっています。

高架を走る「地下鉄」

地下から一気に高架になることや、植田川の上を走るということも、とても珍しいそうです。高架となったのは、地下を掘るより安上がりだったからとか。車窓から東名高速道路を「見下ろす」こともできます。



慣れれば当たり前の風景



台車を外して点検・整備中の車体



広大な工場の敷地

今の名東区は ほぼ昔の「猪高村」

かつてのこの辺りは、急斜面の山林が多く、粘土質のためはげ山で、斜面で段ボールを尻に敷いて滑って遊んだりできたそう。里山で自然薯も採れたとのこと。

さらに遡ると、高針の辺りでは垂炭が採れ、住民の重要な生業にもなっていたそうです。他にも、葉たばこが栽培されたりしていました。

一方で、水利に恵まれない地域が多く、暮らしは大変だったようです。香流川も暴れ川で、水害のたびに流れが変わったとのこと。また、上流の地域と水をめぐる争いもあったようです。ため池の多さといい、農業で生計を立てていた昔の方々の苦勞が偲ばれます。

合併元の村の読み方から、「猪高」の正しい読み方は「いだか」ではなく「いたか」。この猪高村は、周辺部が少し異なりますが、ほぼ今の名東区の区域と重なります。

「おまん」と「棒の手」

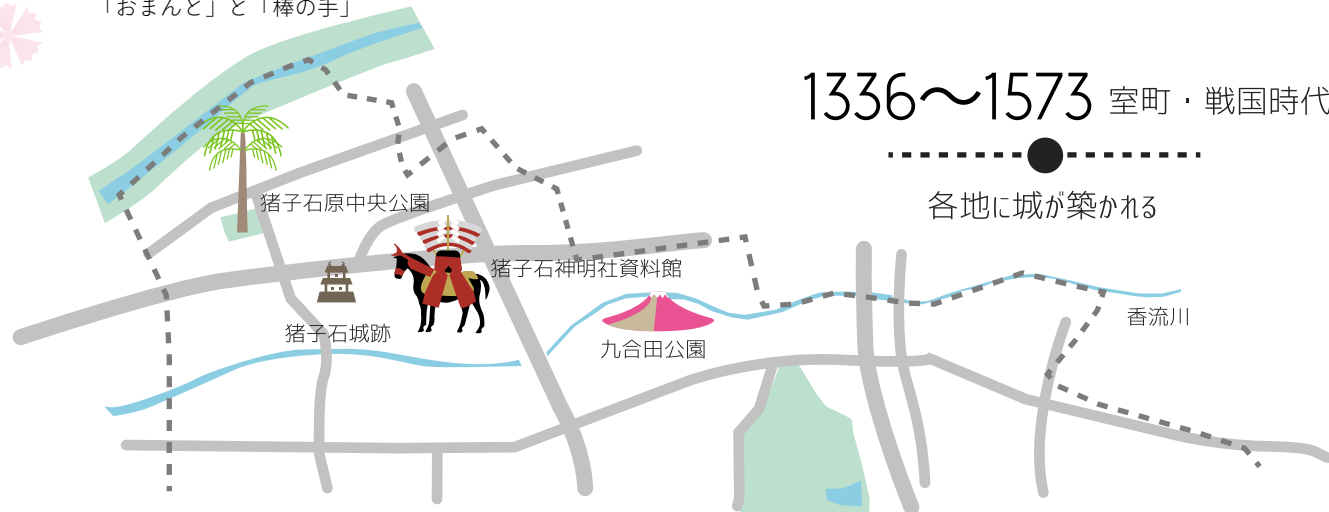
「おまん」とは、織田信長が桶狭間の戦いに勝ったお祝いに清州城に駆け付けたのが由来との説もある、東尾張く西三河の祭礼の風習です。

「棒の手」は、戦国時代に農民が戦の準備として備えたものが儀式化したものといわれ、組ごとに異なる流儀だそう。祭礼ではおまんが行列を作り、方々で鉄砲を撃ち、神社に参詣し、棒の手を奉納したのだそうです。

今でも「こどもおまん」が夏に行われる地区があったり、高針では棒の手も地元の方々によって保存され、10月に行われているそうです。



猪子石神明社資料館に展示されている「おまん」と「棒の手」



1889 M.22

複数の村が合併
猪子石村・高社村誕生

1906 M.39

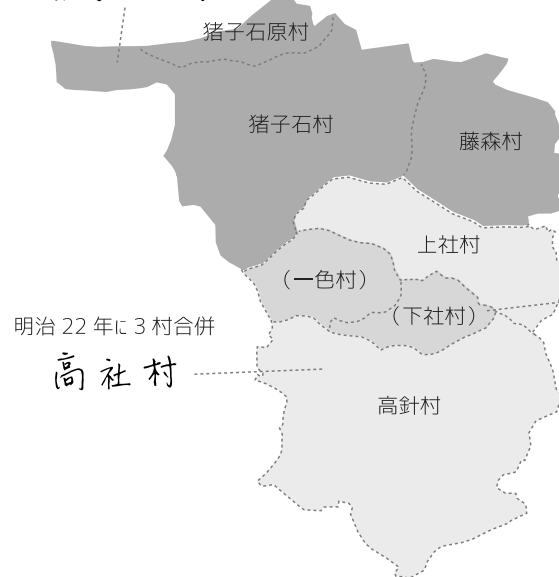
猪子石村と高社村が合併
猪高村誕生
人口 4800 人

1955 S.30

名古屋市と合併
のどかな里山
人口 8500 人程度

明治 22 年に 3 村合併

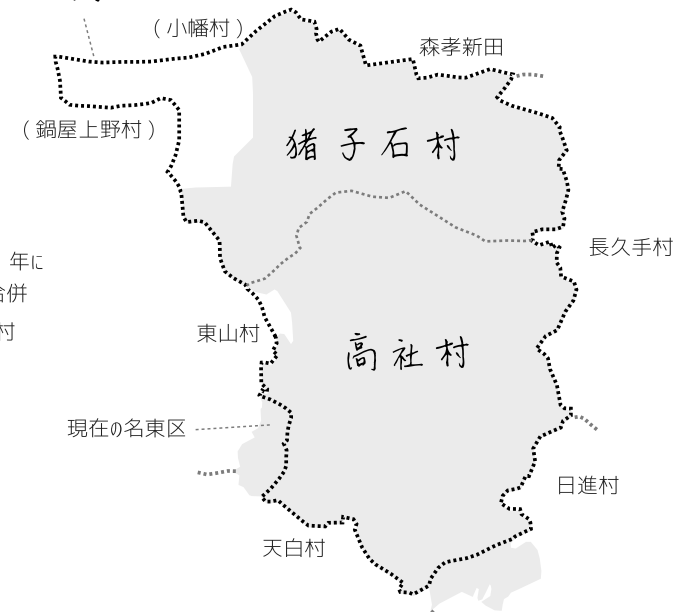
猪子石村



明治 22 年に 3 村合併

高社村

猪高村



明治 11 年に 2 村合併

一社村

現在の名東区

もっと昔の、このあたり

さらに遡ると、千五百年前から人は住んでいたとのこと。素焼きの土器が出土しているそうです。粘土質の土、燃料となる木、窯を作りやすい斜面、といった条件が整っていたからで、裏を返せば土地はやせていて、半農半工で暮らしていたそう。室町く戦国時代にかけては、お城も6つあったようです。寺社になっているところや、住宅地となっているところも。6つの城跡、調べてみよう！

めいとう勝家くん、「生誕の地」へ

明徳寺はそんな城跡の一つ。下社城は柴田勝家生誕の地だそうです。「めいとう勝家くん」が、明徳寺を訪れました。お寺は高台にあって見晴らしも良く、今の発展した名東区を眺めて感慨深げでした。





名東区の公園は百十五か所もあるそう。もともと丘陵地のせいか、二段式の公園が目立ちます。遊具なども個性的で、中には芸術作品のようなもの！ 大きなところでもなく、魅力的な公園がいっぱいあります。写真はどの公園のものか、分かりますか？

公園がいっぱい！



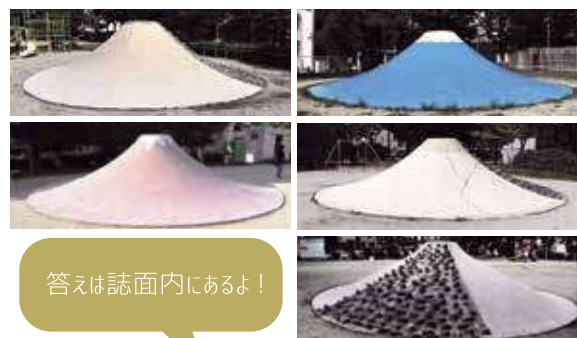
名東区を探索するなら ...
Google map を準備ください



名東区富士山めぐり

昭和時代、名古屋を中心とした公園に数多く作られた富士山すべり台。名東区にも、5か所見つけました。こちらにも、どれがどの公園か、分かりますか？

「近所の公園にあるかな？探してみよう！」



答えは誌面内にあるよ！

名東区クイズ

- Q1. 名古屋市と合併した時の人口は何人？
- Q2. 城跡はいくつあるでしょう？
- Q3. 名東区で一番標高が高いのは？



姫若公園の上から見下ろす

三角地帯から名古屋ICを望む

「三角地帯」に行ってみた

高架道路にぐるりと囲まれた場所を発見。訪れてみると、企業の物流拠点などが多く、高速道路の地の利と分りました。このエリアの公園は、なんと三段構造。昔の丘陵地を活用しているのかも。



昔ながらの道を通って蓮教寺へ

取材を始める前からよく出た声が、「名東区は迷いやすい」というもの。南に向かっていたつもりが、いつの間にか東向きになっていたということも多々。区画整理で大部分が開発され整えられた名東区ですが、地形の影響もあるのでしょうか、広い通りでも曲がっている道が多く、油断はできません。

また、特に古くからあるまちでは、道も昔の名残を残しています。

碁盤の目、ばかりでもなく



愛知東邦大学前の急な坂

淑女坂



坂道の多い名東区ですが、区画整理で、これでもなだらかになったそうです。昔の里山の頃、どんなだったんだろう……。 「淑女坂」はずっとまつすぐの、見晴らしが良く長い坂道。一方で、愛知東邦大学前の坂道は、ひよっとして区内で一番急なのは、と私たちは勝手に思っています。

名東区と言えば「坂」

不思議な一本道にも出会いました。高針の蓮教寺付近から上社インターの南側に至るルート。はてなマークのようにも見えます。私たちは「ねいックの道」と命名。道なりに歩いていると、今どちらの方角を向いているのか、慣れない私たちには太陽が出ていないと本当に分からなくなりました。

今とこれからの名東区 より住みやすく

「住みやすい」。今回取材に応じて下さった方々は、私たちの「お住まいになってどうお感じですか？」との問いに、口をそろえておっしゃいました。まちの賑わいと住まいの落ち着きが両立しているエリアなのでしょう。「人の入れ替わりはあるけど、昔の付き合いも残っている」とお聞きし、それがこの50年の積み重ねなのかもしれないと思いました。「これから名東区はどうなると思いますか？」との問いにも、「じゅうぶんいいところだけど、もっと住みやすくなるといいね」でした。今のままでいい、とも取れますが、活気と落ち着きの両方を保ちつつより良いまちへ、と私たちは受け止めました。私たちが今回発見してきた、自然とともに暮らす名東区の姿は、未来にもぜひあって欲しいなと思いました。



紹介しきれなかった魅どころと、
大学から一望する名東区

《取材協力》蓮教寺住職三井蓮孝、猪子石神明社資料館高木勉、柴田邦彦、安達正己、藤が丘学区団体連絡協議会会長・藤が丘まちづくり協議会会長柴田達男、藤が丘学区区政協力委員会副委員長伊藤真知子、名古屋市交通局藤が丘工場、名古屋市商店街振興組合連合会名東支部、明德寺（順不同・敬称略）

《参考文献》猪高村誌（愛知県郷土資料刊行会）、名古屋の富士山すべり台（牛田吉幸著、大竹敏之編、風媒社）、名東区制20周年記念誌、猪高緑地の水の環、名東区内各学区の「OUR GAKKU」、名古屋公式ウェブサイト

《愛知東邦大学学生有志》戸田光、平出大和、郭煌杭、高橋竜也、信岡咲羅、杉江祥太郎、松澤侑慶、牛尾飛々祐、川寄光妃、高柳颯太

取材を終えて

「名東区、広い！」やはり隅から隅まで歩き尽くすのは困難でした。それでも、ここに書き切れないほどの「魅どころ」をたくさん発見できました。皆さんも、区内の普段行かないところへ、足を延ばしてみませんか。



みんなで育む 花と緑

緑地や公園だけでなく、自然と目に入る四季折々の花。一軒家のお庭も、集合住宅の緑地も充実。街路樹の脇のスペースなども上手に使って、色とりどりの花が、歩く私たちを楽しませてくれました。今回気づいたのは、まちの緑の多くが地域の方やボーイスカウトなど、本当にいろんな方々のおかげということ。それらの方々に感謝です。